

40 【街の散策からの気づき発見】

西金野井の獅子舞と東中野の獅子舞

会員 K.T.

南桜井・川辺地区には県無形民俗文化財指定の「西金野井の獅子舞」と市無形文化財指定の「東中野の獅子舞」が伝承されている。春日部市教育委員会『春日部市文化財マップ』資料を参照すると、南桜井・川辺地区は、明治22年(1889)に各々7つの村が合併して南桜井村、川辺村が誕生。この地区は下総台地が広がり、風早遺跡等の旧石器時代から近世にかけての遺跡が34ヶある、という。江戸時代前期の寛永年間(1624～1644)に江戸川が開削されると、西金野井に舟運の河岸ができ、周辺の物流拠点として栄えた。西金野井香取神社は古くは「梶取神社」と呼ばれ、舟運に携わる人々の信仰を集めた、という。獅子舞が奉納される西金野井香取神社本殿(春日部市西金野井1053)は室町時代(1336～1573)末期の建立と伝わる。この社殿は、もっと江戸川近くにあったが、昭和26年(1951)の江戸川改修で建物は、そのまま、曳家(建物を解体せずに移転)の方法で現在地に移された。

鳥居が離れたところに、ポツンとある。土地の人の話によると、今は道路になっているが、もとは参道だった、とのことだ。鳥居は、社殿から真っ直ぐ、100mほど先にある。境内から鳥居までの途中は道路、鳥居のある一画のみ、参道となっている。『鳥居から本殿の参道は真ん中が神様の通り道だ。途中が道路になったのは、なにか、いきさつがあったのだろう。』、と思う。

獅子舞は鳥居の前と、本殿前で舞われるらしい。西金野井香取神社の散策を続けると、本殿の傍に、「西金野井の獅子舞」を説明する簡潔な看板があった。「(前略)当社に伝わる獅子舞は、7月下旬の夏祈禱に、悪魔祓い・五穀豊穡や雨乞いの祈願の芸能として演じられてきた。(後略)」と、ある。

次に、ここから江戸川下流になる東中野香取神社(春日部市東中野366)に向かう。境内に、「東中野の獅子舞」の看板があった。「東中野の獅子舞」は、市の指定文化財になっている。看板説明によると、「東中野の獅子舞は、享保五年(1720)に越谷市の下間久里の獅子舞から伝授されたもので、銚子口の獅子舞、赤沼の獅子舞、野田のぱっぱか獅子舞と同系統です。一人立三頭獅子という形式で、一人が一頭の獅子頭をかぶり、大夫(獅子)、中獅子、女獅子の三頭の獅子で舞いを行います。各獅子の動作は、女獅子が軽装で激しく、中獅子は勇壮で、大夫はややテンポを遅くして威厳を感じさせるのが特徴です。(後略)」

令和五年三月 春日部市教育委員会」とある。

獅子舞を、西角井正大 著『伝統芸能シリーズ4 民俗芸能』きょうせい 平成二年四月、から引用すると、「(前略)獅子舞はつくりものの獅子頭を頭にかぶって、舞ったり踊ったりする芸能です。日本中に分布していて、おそらく民俗芸能中で最も広い分布と数を数える芸能でしょう。しかも現存するあらゆる日本の芸能のうちで最も古い来歴をもち、またあまり変化をとげないまま、つまりほんとうに古風を残すものなのです。(中略)古い中国伝来の芸能の一部として、伎楽の伝来は、その調度品だけについていうならすでに西暦550年ごろの欽明天皇の時代といわれていますが、推古天皇20年つまり西暦612年に百済の帰化人味魔之(みまし)が大和の桜井に少年達を集めて「伎楽舞」を習わしています。(中略)国立博物館、正倉院、東大寺、法隆寺といったところに二百数十面もの伎楽面が残されていますが、その中に獅子頭もあります。(後略)」

獅子舞の源流は6世紀半ば、仏教の伝来とともに伝わったようだ。その後、江戸時代、神社信仰の中で、伊勢や熱田で、様々な神楽が生まれ、その中で、獅子舞は神官や神楽師たちが各地に広め、伝わった各地で独自に継承されたい。この地区の獅子舞の伝授年代は異なるらしいが、魔を祓い、地域の安寧と五穀豊穡を願う民俗芸能として、この地のコミュニティの中で、獅子舞の伝統文化が受け継がれている。



西金野井香取神社本殿

東中野香取神 1

西金野井の獅子舞看板

東中野香取神社殿

西金野井香取神社鳥居

東中野の獅子舞看板